

16年の沈黙を破る新作小説! 熱狂的 反響!!

いわゆる泣ける小説ではない。 だが読めば涙が止まらない。

(星野智幸)

悲観と楽観の間で引き裂かれたわれわれの時代の「気分」を鮮やかに捉えている (朝日新聞1/30・松浦寿輝)
圧巻。傑作。早くも今年のベスト3に入る作品に出会ってしまった (読書人2/1・伊藤氏貴)

他、読売新聞(1/29)、産経新聞(1/30)、東京新聞(2/4)、共同通信、ダ・ヴィンチ、文學界、群像……続々掲載!!

ひなた
たんだ
すだか
らかも
つ、
衝撃

いとうせいこう



想像ラジオ

熱狂的
反響!!

@takuoshibasaki

文藝掲載のいとうせいこう氏「想像ラジオ」の電波キャッチ! 死者たちが語り合う、なんとも豊潤な世界。被災者に対する対する配慮を考えると、とても難しい執筆作業なはずなのに、読後感がとても自由な気持ちになった。とても不思議。こんな世界も書いてしまっただなあ。小説、楽しい。

@sazankaQ

いとうせいこう「想像ラジオ」。待ち望んだ新作は期待値を上回っていた。作品のシチュエーションに打ちのめされつつも、未曾有の虚無と絶望があればこそ産まれ得る収穫もあるって事。思わず文学が持つ「再生」の力に賭けてみたくなる。想一像一ラジオ。

@1010Nayuta

いとうせいこう「想像ラジオ」を読了。途中、何度も読むのやめようかと思ったくらい胸がモノでなっていて泣いてまた読んでの繰り返し。なんとか最後まで読んだ。想像出来る心でいた。それは不器用に生きることでしかないとしても。

@kyayoyo

想像ラジオを読んでから、10年前に亡くなった父が、亡くなったその朝、その時間に、複数の場所で、目撃されていた話を思い出している。車ですれ違った。電車で見た。海外で見た。死者は時間と空間に縛られないという。その話を信じている私は、いまだ死をうまくのみこめずここに在る。

@popoboke

想像ラジオを読了。耳を閉ざしてそこにいるんだろう?

@hulaaaaaaa

想像ラジオを読了。久々に本読んで泣きそうになっただけのやろう。相手が生きてても死んでも聞こえる声と聞こえない声がある。聴きたい声もある。この物語の終わりはまだ見えないので私なりに想像していきたい。想像ネームふらふらでした。

@ayumuz

都会の日常やテレビの享楽を風景として眺めながら、「そこにいない」人たちのことを忘れてはならない、と気を張っているところがある。しんどい。だが、いとうせいこうさんの「想像ラジオ」によって新たな「場」が生まれた。これ程柔らかな気持ちで、彼の地の人々を忘れずにいられる気がする。

@nari052

想像ラジオ、びびびと泣いてます。そういえばラジオも聞かないし、テレビも見る8読む割合が多いし、聞くという行為の割合減って減ってるかもしれない。

@kmpnote2

「想像ラジオ」いとうせいこうが16年ぶりに発表した中編小説を昨夜なにげなく読み終わり、フトン入ってしばらくして不意に涙が出てしばらく止まらなかった。これは悲しい物語へ触れた涙ではなく。

@dagash3830

いとうせいこう「想像ラジオ」を読んだ。素晴らしい。自分の想像力の無さを恥じた。いろいろと忘れていたことがある。ほげとしていたときは自分を戒めるために想像ラジオにチューニングを合わせよう。DJアーク、ありがとう。またあなたの声が聴きたい。

@pegasus 6

文藝のいとうせいこう「想像ラジオ」がとても面白い。こんなに自由な感覚で文章を読むのは、もしかしたら初めてかもしれない。なにもかも書いてあることを読んでいるのに、でも頭の中で、それぞれに別々のラジオが流れている。私の中では、少し子供っぽい声で、アークが話している。それはすばらしい。

@chujimori

いとうせいこう「想像ラジオ」を読了。これは素晴らしい小説だ。私は津波で父母を亡くしたのだけれど、遺体安置所で両親と再会したあの日と大きな波が来たあの日を、未だにうまく繋げられずにいるのだ。断絶している。その空白を肯定してくれるフィクション。私は泣いた、失われた沢山の命を思っ。

@bibduck

いとうせいこうの「想像ラジオ」は凄い。短い感想ではどうして語り尽くせるものではない。読み終わってまず凄いなと思ひ、それから僕はこの物語の事をずっと考えている。自分の中にじわりじわりと染み込んでくる。出来るだけ長い時間をかけて僕は考えよう。心に染み込んでほしい。想像しよう。

@charin0829

いとうせいこう「想像ラジオ」。此岸と彼岸、現実と虚構、その間を行ったり来たりしながら、いつの間にか聞こえないはずの音が、書かれていないはずの音が聴こえてきて、涙が止まらなくなった。私が必要としている言葉のすべてがその中に詰まっている。と言いたくなるような小説。心震えたよ。あはは。

@knownfiction

今更の感想ですが、文藝2013春号のいとうせいこう「想像ラジオ」。泣きながら読んで、読み終わって夜、布団に入ってから思い出して泣きすぎるくらいに久々に涙に浸る作品でした。単に泣ける作品というのじゃなしに、作者の誠実さと、この作品が娯楽作品としても成立している所に驚嘆した感じです。

@jizumikasagi

「想像ラジオ」胸がいっぱいになりながら、何度も読むのをやめ、また読み、熱くなり、最後まで読む決意をし、涙止まらず、読み、苦しくて涙が止まらず、そして何とか読み終え、私の体験した1年1ヶ月が救われる。今、実家に行きたい。

@sun21start

想像ラジオ。心がカタルシス。声と沈黙。死者と生者一ふたつでひとつ。一緒に未来を作る一抱きしめあつていくんだ。お風呂に入って聴いてたらDJアークがひとまず最終放送。想一像一ラジオ。大音量のジグルのうしろに数多の人々のシャウトが重なって聴こえた。このラジオがあつて良かった。

@sekinechikata

いとうせいこうさんの「想像ラジオ」、すごく感動。日本文学史にのこるんじゃないかな。ほんとは、明日の朝から早く寝ようと思ったんだけど、一気に引き込まれて最後まで読んでしまった。まだ、ユーモアが、心にしみてます。

@515hikaru

いとうせいこう著、「想像ラジオ」の威力を墓参りに思い知った。人の死に対する生者の姿勢を問う作品。先の震災をテーマにしたはずが抽象化され、普遍的な死に対しても十分なメッセージになっている。最後のシーンで、私は初めて小説の力を知った。

@ito shi

想像ラジオ読了。圧倒的に引き込まれた。小説読んだあとの小説の運動から抜けたあとのこの高揚感がたまらん。付箋いっぱい付けたけど、二回目読むときに一回目の僕の声のレイヤーが入ってくるからさらにおもしろく読める。まさに何度もラジオをかけなおすことでそのたびに物語が編まれる。傑作だ。

@nusneco

くるしいまでに小説のちから。想像ラジオがなにかとてつもすばらしい賞をもらうといいな。

@teaforyou t4u

いとうせいこう「想像ラジオ」読了。事前の情報でジョン・レノンの「イマジジン」とカードの「死者の代弁者」を想像していたけど、もっとアクティブで「今」だった。個人的にはまだ私には強い薬だったので泣いて中断すること数度。でも、想像ラジオ。あの人のラジオも、私のラジオも。

@cafe_hoopla

いとうせいこう「想像ラジオ」途中で読むのを中断するくらい泣いた。亡くなった人たちと僕はどう向き合えばよいのか?それに対する真摯な回答がここに。3.11を改めて心に刻むためにも、音に読んで欲しい。